



SEMANA DA FESTA ANUAL DAS ÁRVORES

Asflora 便り 2019 年 3 月 26～30 日 Ideflor-bio（州森林院）主催 樹木週間への参加

Asflora（アマゾン森林友の協会）は、3 月 26 日（火）～30 日（土）、州森林院（Ideflor-bio = パラ州森林開発及び多様性保全院）主催による、ベレン市内にある州立ウチンガ公園で、樹木週間に参加しました。

2 月 22 日に同公園内で、Asflora が三菱商事、NPO『地球村』助成による植樹祭を行ったので、今年の樹木週間の催しに、とても頼りにされました。

3 月 26 日（火）午前 9 時から午後 4 時まで、公園の入り口にある講堂で、40 人の応募参加者に、Asflora がこれまで取り組んできた宮脇方式の植樹活動を主に発表し、森の保全について一緒に考えました。





この日は、丸一日を Asflora がプレゼンテーションを担当し、佐藤、ジョジアーネ、ブルーノが演壇に立ちました。Asflora の植樹活動は、面積は僅かですが、当地に元々あった熱帯雨林を再生しようとする森づくりです。

荒廃地に植樹し、数年～19 年経った写真を見せると、自然の森のようになってきていることで、参加者はとても興味を持ってくれました。しかし、その植えた森ですら、あっという間に宅地開発などで消えてしまうことも伝え、アマゾンの森を守ることの難しさについても一緒に考えて貰いました。公共の利益が私的な利益に押され、すでにブラジル・アマゾンの森林の 2 割超が喪失しています。昨年 7 月までの 1 年間の森林破壊は、INPE（ブラジル宇宙空間研究所）の統計で、2,700 km²（東京都の 3 倍以上）でした。2004 年以降は、年間森林破壊面積は格段に少なくなっているとは言え・・・

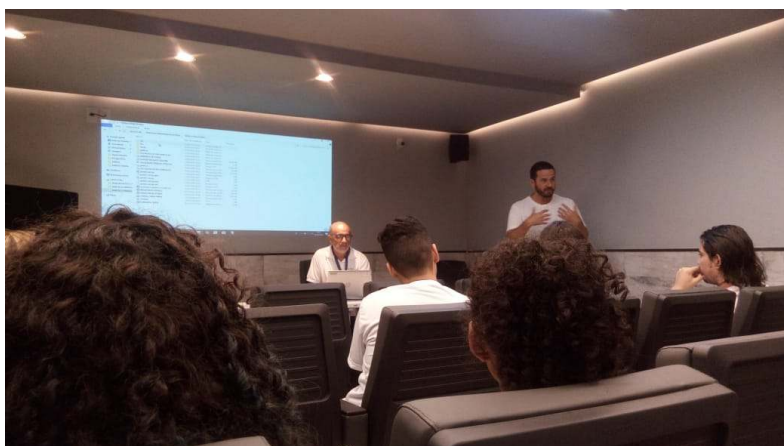
翌 3 月 27 日（水）9 時～11 時半は、2 月 22 日に植樹祭を行った、三菱商事、NPO『地球村』助成によるウチンガ公園内の植樹地で、荒廃地への植樹体験をしました。前日は朝から終日雨でしたが、この日の午前中は、雨が降らず助かりました。



植樹中のこの場所は、攪乱された粘土質土壌です。実際に、参加者に穴掘り器を使わせ、ど

んな土かを感じて貰いました。 苗の植え付けに使う、有機質をたっぷり混ぜた用土には、匂いを嗅ぎ、手触りで植物の生育に適する土を感じるようにさせました。 痩せた土に蔓延ってくる除草が、植えた苗木を脅かします。除草は、混植密植しているので、慣れないと植えた苗木を痛めてしまいます。説明をして、有志に除草鋤で作業もさせました。参加者は、町に住む学生が多かったので、こうして荒廃化した場所での植樹と森づくりが、決して植えればいいというものではないことを知って貰うようにしました。

3月28日（木）は、エミリオ・ゴエルジ博物館のレアンドロ・フェレイラ教授による森林の調査方法についての講義でした。Asfloraからもジョジアーネ、ブルーノ他が参加しました。 森林内での実習は、みんな興味深く学んでいます。



3月29日（金）は、再び Asflora の植樹地で、州森林院のカルラ・ベングトン総裁（写真 右下）も参加し、植樹を行いました。 ウチンガ公園に出入りする環境団体関係者が多く参加しました。





3月29日(土)、この日はウチンガ公園の入り口広場で森林、樹木の恵みをアピールする民芸品、物産の市を開き、公園入場者に展示販売しました。Asfloraは、木の实から作った装飾品を販売しています。



Instituto Amigos da Floresta Amazônica-ASFLORA

アマゾン森林友の協会

コーディネーター：ジョジアーネ・マツス

(文と写真：佐藤卓司)